



心に残る価値ある校歌

校長 伊藤 栄司

初夏の風に肌も汗ばむ季節となりました。明日は、樋口区長はじめ約 200 名のご来賓の皆様、約 120 名の保護者の皆様とともに、「お茶の水小学校・幼稚園 開校園 30 周年記念 および 新校舎落成記念式典・祝賀会」を開催いたします。皆様、どうぞよろしくお祈りします。

素敵な校歌

表題は平成 5 年 11 月に行われた校歌校章制定委員会（委員長：丸山信夫初代校長）の記録に残っている言葉です。この時の会議では、「将来にあって永久に子どもたちの心に残る価値ある校歌にしなければならない」との共通認識に立ち、著名作曲家・作詞家に依頼することを決定しています。

その後、著名な方の校歌を 6 校分集め作曲家・作詞家の名を伏せて投票した結果、山本直純氏が候補として上がりました。そして、丸山初代校長は山本氏に会い、作詞作曲を依頼したところご快諾いただきました。また、山本氏から歌詞については、学校や制定委員会で作るのがよいのではないかと提案がありました。

196 人が応募

そこで、児童に歌詞のアンケートをとったところ次のような言葉が上がりました。

○地域等に関する言葉：お茶の水、神田川、駿河台、おほり、本の街など

○情景的な言葉：緑、桜、青空、大空、学舎など

○情動的な言葉：豊かな心、よく考える、健康、はばたく、伸びる、希望、のぞみ、仲良し、知恵、輝く
三つが一つになって、未来に向けて、歴史をもとに、伝統をつくる、力をあわせ

制定委員会では、子どもたちから挙げられた言葉をもとに、歌詞の 1 番は「地域の歴史性を重要視してそこに学び大切にしていこうと歌う。2 番は現在を踏まえ未来に向けて大きく躍進する姿を歌い込む。」と方向性が決まりました。完成した歌詞を見ると、子どもたちが書き記した言葉が多く採用されています。

地域から世界へ

制定委員会の方針通りに最初の歌詞は地域性を重視し「千代田の杜に神田川」となっています。これは、錦華小、西神田小、小川小の 3 校が一つになり学区が広がったことを意味しています。南端は皇居、北端は神田川に接し南北のほぼ中央に位置する学校に子どもたちが通い育っていると歌は始まります。そして、「祭りの声」や「江戸の名残」と続き、地域を挙げて江戸時代から続く文化を大切にしている町の良さを表現しています。

2 番の最初は「学府の町の学び舎に」で始まります。地域一帯は古書店街をはじめ多くの大学が名を連ねる学問の宝庫であり、豊かな学びを有する周囲からの影響は計り知れない。優れた環境の中で子どもたちは「知恵と力を磨きあう」と続きます。そして大きな望み（希望）をもって「世界にはばたく」と未来に向けて躍進する姿を歌っています。

栄えあるお茶の水小学校

最後は、1 番も 2 番も「栄えある我らのお茶の水小学校」で締めくくられています。「栄えある」とは、名誉や尊厳が備わっている姿を指します。輝かしい、栄光、発展等の言葉を連想する「栄えある学校」としてこれからも 50 年、100 年と大切に歌い繋いでいきたい素敵な校歌です。明日の式典・祝賀会では歌詞に込められた思いを感じながら、皆さんと共に声高らかに歌います。